

2016 年度総会にあたって

2006 年 6 月、日本で初めての「SOS 子どもの村」をめざして、「NPO 法人子どもの村福岡を設立する会」が発足して 10 年、本年 4 月、インターナショナル理事会から、日本が正式メンバーに認められたとのニュースが、世界に発せられました。この 10 年、行政や企業、市民の皆様に支えられて、幾多の困難を乗り越え、世界の仲間になることができました。これからは、世界の一員として、インターナショナルのミッションと 2030 年に向けた「戦略 2030」の実現をともに担っていくことが求められます。

折しも、我が国では、子どもの貧困や児童虐待の急増を背景に、新たな子ども家庭福祉施策の構築のために、児童福祉法が改正されました。新・児童福祉法の第 1 条には「すべての児童は、子どもの権利条約にのっとり、適切に養育され、愛され、保護され、自立が図られる」と SOS 子どもの村のミッション「すべての子どもは家庭で育ち、愛され、尊重され、守られる」がそのままに謳われています。また、第 3 条には、「家庭で養育することが困難な場合は、家庭と同じ環境(里親)で養育される」と里親推進が法的に規定されました。

さて、開村 7 年目の今津の「子どもの村福岡」では、家族と離れて暮らす子どもたちを、村長を中心に各家庭がチームとなって育てています。実家族のもとに帰ることをめざして、子どもの気持ちに寄り添いながら「里親養育のモデル」を実践しています。

「地域で困難を抱える子どもと家庭への支援」については、「福岡市子ども家庭支援センター-SOS 子どもの村」事業として、平日夜間・休日の相談や子どもの一時保護、ショートステイに力を注いでいます。さらに、西区役所とともに、地域の子どもの家族を支える「校区里親普及とショートステイのしくみづくり」にもチャレンジしています。

「子ども支援のプログラム開発と人材養成事業」では、オーストリアから 3 人の講師をお招きし、東京・福岡で SOS 子どもの村の「家族強化プログラム」を紹介することができました。また、イギリスで開発された里親研修プログラム「フォスタリング・チェンジプログラム」を導入し、試行しています。

この変革の時期に、昨年度は、保科清理事長の提案により、新たなステージに向けて「5 年後の目標と行動計画」を策定しました。今年度は、計画の 1 年目として、子どもの権利を尊重し、新しい事業とそのための組織と財政基盤の強化に取り組んでいきます。

子どもの貧困が広がる中、里親養育を推進し、子どもの虐待や親子の分離を防ぐ「SOS 子どもの村 JAPAN」と「子どもの村東北」の活動は、今後ますます重要になってくると思われます。

I. 事業概要

1) 組織に関する経過

2015 年度は「SOS 子どもの村インターナショナル」への加盟及び「子どもの村東北」との合併を視野に、組織の強化、充実を図っていくことを目標にスタートした。

加盟協議は、「SOS 子どもの村 JAPAN」を窓口として進めていたが、2015 年 5 月に予定されていたシューバアジア事務局長の来日が実現せず、2016 年 2 月になり、アジアセンターとの連絡を行い、ようやく申請手続きを開始したため、短期間で「定款変更」等の対応を迫られた。さらに、3 月には、プノンペンでのアジア会議に出席し、コウル会長、シューバアジア事務局長と協議し、加盟要件を確認し、4 月 2 日の臨時総会で必要な定款変更を行った後、加盟申請書を提出した。加盟は、4 月に行われた理事会を経て、6 月 23 日のインターナショナル総会で正式に承認される予定。

「子どもの村東北」との合併については、東北が認定 NPO 法人の認可を得た後、正式に合併する予定である。2 月に両者で、第 1 回の「合併準備委員会」を設立し、協議を始めたところである。

組織の強化では、JAPAN の目指す社会像とその達成に向けて、組織運営体制の整備と更なる強化、中長期的事業運営計画の策定、安定的収益事業の確保が必要であり、「ビジョン策定委員会」を立ち上げ検討し、報告書をまとめた。

2) 家族と暮らせない子どもたちへの支援:子どもの村の設立及び運営

「子どもの村福岡」は、年度当初、5 家庭 14 名の子どもで出発したが、1 年間に子どもも 4 名が実家族のもとに帰り、村からの子どもの巣立ちを支援する年となった。また、養育者の疲弊に対して、村長を中心としたファミリーチームミーティングによる家庭養育の仕組みづくりを行い、各家庭への支援に専門家とともにチームで取り組んできた。

子どもの村東北との連携・支援については、村運営の仕組みづくり、人材養成への支援、新たなセンター事業開始への支援等福岡での実践を伝えた。

3) 危機にある子どもと家族への支援

福岡市より受託している平日夜間・土日祭日相談事業は、3 名のスタッフで年間延相談数は 1170 家族(昨年度 990 家族) で市内 7 区から万遍なく来所している。子どもの発達に関する問題、対人関係、不登校、精神的問題の相談など、困難な事例も多い。

また、西区校区里親普及事業では、西区役所とともにネットワーク会議や里親普及パネル展示、「校区里親もっと知ろうカフェ」などを行い、里親制度の啓発に努めた。

4) 子ども支援プログラムの研究開発と人材養成

SOS 子どもの村インターナショナルの「家族強化プログラム」や各種ポリシーを翻訳し、子どもの村の育親支援や福岡市の里親支援に活かすとともに、広く「東京フォーラム」、「九州フォーラム」や外部向けのセミナーなどで広報した。

里親・ファミリーホーム専門研修会として、専門的なテーマにそった講義と実践考察である「ケア・スタディ」を組み合わせ実施、また一般研修として、社会的養護の現状と課題や SOS 子どもの村の取組について市民への理解を広める研修を実施した。さらに、イギリスで開発された里親研修「フォスタリング・チェンジプログラム」の日本への導入をめざし、企画委員会の開催、テキストの翻訳、ファシリテーター養成セミナーを実施した。

また、里親・里子支援として、専門研修時の「子どもの遊びプログラム」や里親子のための「リフレッシュキャンプ」を行った。

家庭養育推進のために、専門家(小児科医、精神科医、弁護士など)との連携・支援の多分野ネットワークの構築をめざす活動を行った。

5) アドボカシー活動

「子どもの村福岡」開村5周年、「子どもの村東北」開村記念企画として、ロバート・キャンベル教授を招いて、フォーラムを行った。

また危機にある子どもと家族への支援の重要性とそのプログラムを紹介する特別事業として、オーストリアから講師3名を招き「東京フォーラム」、「九州フォーラム」を実施した。また、「国連の子どもの権利条約」「国連子どもの代替養育に関するガイドライン」や「Quality 4 Children」について、講演会や学会発表等で普及広報に努めた。

2015年度 活動実績一覧

年月	全体	子どもの村福岡の運営	子どもサポート部
行事、会議等 (定例)		村運営会議 月1回 11回開催 村ミーティング 月1回 12回開催 家族支援会議 6回開催 たまご広場(子育てサロン) 毎週火曜日 計45回実施 健康相談 奇数月第3土曜日 4回実施 イエローシートキャンペーン (伊都イオン)原則毎月11日	子どもサポート部会(月1回)
4月	25 第1回理事会	18 草取り(草取り隊♪)	
5月	13 執行会議① 21 三役会議 27 子どもの村福岡運営委員会	10 草取り(草取り隊♪) 13-15 大掃除(西日本ビル代行) 21 福祉村村議会 28 地域連絡協議会	19 校区里親普及ネットワーク会議 フォスタリングチェンジ企画委員会
6月	7 第2回理事会 24 執行会議② 定時総会	13 草取り(インキュベートOB会) 20 草取り(九州電力 発電本部) 27 草取り(草取り隊♪)	13 一般公開研修会①
7月	18 三役会議①	9 福祉村村議会 26 草取り(草取り隊♪)	21 校区里親もつと知ろうカフェ フォスタリングチェンジ企画委員会
8月	8 第3回理事会 8 執行会議③		30 専門研修会
9月	5 執行会議④	12 草取り(DHL) 14-15 子どもの村東北の育親採用候補者の 研修・実習受入れ	校区里親普及ネットワーク会議 フォスタリングチェンジ企画委員会
10月	1 常任理事会⑤ 10 執行会議⑤ 25 三役会議	17 清掃(サニクリーン九州) 20 子育てフェスタ2015(西区) 24 草取り(草取り隊♪) 31 草取り(太陽ライオンズクラブ)	24 一般公開研修会②
11月	9 子どもの村福岡運営委員会 19 執行会議⑥ 28 第4回理事会	2 西区オレンジリボン街頭キャンペーン 4 清掃(西日本ビル代行) 7 バーベキュー(ボランティア) 14 草取り(インキュベートOB会) 22 草取り(草取り隊♪) 27 福岡市児童相談所との支援調整会議・交流会 28 出前講座(九州電力 発電本部)	2-3 東京フォーラム及び前夜祭 9 九州フォーラム フォスタリングチェンジ企画委員会
12月		19 今津フォーラム 20 草取り(草取り隊♪) 22 清掃活動(舞鶴高校) 23 餅つき(サン電工社)	
1月	9 三役会議	11 十一日祭 29 今津地域連絡協議会 30 人権カフェ	23 専門研修会 フォスタリングチェンジ企画委員会
2月	6 第5回理事会	6 今津フォーラム 13 個人支援会員感謝の会 21 草取り(草取り隊♪)	26 精神科病院研修 27 一般公開研修会③ 校区里親普及ネットワーク会議 フォスタリングチェンジファシリテーター養成講座
3月	7 執行会議⑦ 13 第6回理事会	5 JRウォークラリー 10 福祉村村議会	

年月	コミュニケーション	資金開発	諸団体との連携
行事、 会議等 (定例)		資金開発会議(月1回)	
4月		25 天神街頭募金	13 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 18 こぼらミーティング
5月	1 ニュースレター発行	30 ヤフオクドーム募金	11 子どもにやさしいまちづくりネットワーク
6月		27 ボランティア説明会	8 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 19 子どもの村福岡後援会理事会 27 ボランティア懇親会
7月	3 ロバート・キャンベル教授講演会 10 ニュースレター発行 11 草の根セミナー	3 ロバート・キャンベル教授講演会 25 天神街頭募金 30-31 万年氏主催コンサート(久留米)	13 子どもにやさしいまちづくり ネットワーク
8月		29-30 ヤフオクドーム募金	20 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 22 こぼらミーティング
9月	27 草の根セミナー	21 万年氏主催コンサート(西南チャペル) 27 琴コンサート	14 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 27 こぼらミーティング
10月			5 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 23 子どもの村福岡後援会連絡会
11月	1 草の根セミナー 9 支援委員会会議(企業団体)	29 福岡市医師会 オーケストラコンサート	9 子どもにやさしいまちづくり ネットワーク
12月	21 ニュースレター発行	20 9校合同募金 (インターアクトクラブ)	5-6 子どもにやさしいまちづくりフォーラム 14 子どもにやさしいまちづくりネットワーク
1月			16 ボランティアの集い 「こぼら新年親睦会」
2月	14 草の根セミナー	28 博多楽団コンサート	8 子どもにやさしいまちづくりネットワーク
3月			12 こぼらミーティング 14 子どもにやさしいまちづくりネットワーク

Ⅱ 事業報告

1. 会議

	会 議	実施回数	計画
1	総会	1回	1回
2	理事会	7回	4回
3	ビジョン策定委員会 SOS 子どもの村 JAPAN の目指すビジョンと中期計画策定委員会	4回	4回
4	執行会議	7回	10回
5	子どもの村福岡運営委員会	2回	4回
6	専門部会 子どもサポート部会	12回	12回
	資金開発部会	12回	12回
	コミュニケーション部会	6回	6回
7	SOS 子どもの村 JAPAN・子どもの村東北 合併準備委員会	1回	

2. 事業

1) 家族と暮らせない子どもたちへの支援

「子どもの村福岡」は、「家庭養護のモデル」をめざして、子どもたちの家庭養育と実家族のもとへの復帰に努力してきた。また、開村 5 年を経過し顕在化してきた養育者の疲弊を課題ととらえ、各家庭への支援に専門家とともにチームで取り組んできた。

(1) 子どもの村福岡の運営

(ア) 育親の確保と子どもの養育

2015 年度初めは、育親 1 人を新たに採用し、5 家庭、子ども 14 人で出発したが、5 月に育親 1 人が退職した。また、1 年間に 4 人の子どもが家庭復帰した。これは、子どもの最善の利益を考え、代替養育として子どもたちの家庭復帰に取り組んだ成果である。また、短期預かりとして 2 人の一時保護と 10 人のショートステイの子どもを受け入れた。なお、開村から 6 年間で養育した子どもの数は、短期預かりを含め 51 人となった。

子どもの受託状況

(人)

区 分	年 度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	計
新規に里親委託された子どもの数(A)		3	10	5	1	1	0	20
家庭に帰った子どもの数(B)		0	4	1	0	1	4	10
今年度里親委託されていた子どもの数(C)		3	13	14	14	15	14	—
一時保護の子どもの数(D)		6	0	1	3	4	2	16
ショートステイの子どもの数(E)		—	—	—	—	5	10	15
短期預かりの子どもの数(F)		6	0	1	3	9	12	31
村で養育した子どもの数(累計)(G) (G=前年度 G+A+F)		9	19	25	29	39	51	51

(イ) ファミリーチームミーティングによる家庭養育のしくみづくり

SOSおばさんのチームによる家庭支援や育親の休養日の確保などとともに、ファミリーチームミーティングを各家庭毎に行い、チームでの家庭養育に取り組んだ。

(ウ) 村の運営体制の充実

村長を中心として、ファミリーチームミーティングを毎週行うとともに、村の運営について育親代表、おばさん代表が参加し協議する運営会議、全員で情報共有し協議する村ミーティングなど、村の運営組織体制を充実した。

(エ) 専門家サポートの充実

サポート部会の支援のもとに、自立支援会議や治療的ケアなどのサポートを行った。

(オ) 関係機関、地域との連携

児童相談所をはじめとする行政機関や、学校、幼稚園、療育機関、病院など関係機関と連携した養育を進めた。開村以来の取り組みの中で、関係者との連携が深まっている。地域とは「今津・子どもの村福岡連絡協議会」を中心に連携を進めており、子どもたちや育親、スタッフも地域行事に積極的に参加し、交流を深めている。

(カ) 支援者、ボランティア、メディアとの協働

多くの支援者やボランティアの支援活動が定着してきた。

全国からの約 1,000 名の訪問者や支援者に、子どもの権利を尊重した村の養育実践を紹介するとともに、メディアと連携し家庭養育の大切さを広く社会へアピールした。

<訪問者の状況>

(人、件)

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	計
人数	1,836	1,433	1,753	1,244	1,377	996	8,639
件数	225	155	166	166	134	108	954

<主なボランティア活動（毎年）>

株式会社西日本ビル代行	清掃
福岡市インキュベートOB会	清掃
九州電力株式会社 発電本部	草とり、工作教室
一般社団法人福岡県海洋スポーツ協会	海の日招待
株式会社サニクリーン九州	清掃
株式会社サン電工社	餅つき

(キ) 村の建物、庭、備品などの管理・保全

支援者の支援を受けて、建物の塗装、草取りなどを行ってきた。特に痛みが激しかった「たまごホール」外壁の塗装について、福岡城西ロータリークラブの支援をいただいた。

(2) 子どもの村東北との連携・支援

SOS 子どもの村 JAPAN は、福岡での実践を伝え、村運営の支援を行った。

(ア) 村運営の仕組みづくりへの協力

(イ) 東北での人材養成への支援

(ウ) センター事業開始への支援

2) 危機にある子どもと家族への支援

(1) 平日夜間、土日祭日相談事業

- ・相談実日数は230日/300日中で昨年より4日減じたが、年間相談延家族数は1170家族(昨年度990家族)に上った。3名のスタッフで担当した。
- ・新規家族(70家族)は市内7区から万遍なく来所している。区役所子育て支援課からの紹介は8家族であった。
- ・新規家族の主訴は、子どもの発達に関する問題、対人関係、不登校、精神的問題、暴力、万引き、金品持ち出し等であった。
- ・福岡市及び中央区要保護児童支援地域協議会に参加した。

(2) 里親普及支援事業

(ア) 専門研修

(イ) 西区校区里親普及ネットワーク会議

- ・西区役所、西区子育て支援課、児童相談所(里親担当)、里親会、里親支援専門相談員、西区民生委員・児童委員、西区社会福祉協議会等と共に年度内3回のネットワーク会議を行った。
- ・第21回西区子育てフェスタで里親普及パネルを展示「里親もっと知ろうカフェ」を開催し、里親制度の啓発と草の根の相談会を実施した。

(3) ショートステイ・一時保護

一時保護を利用した子どもは2名、ショートステイを利用した子どもは10名だった。

3) 子ども支援プログラムの研究開発と人材養成

(1) SOS プログラムの翻訳、啓発・普及

SOS 子どもの村インターナショナルの「家族強化プログラム」や各種ポリシーを翻訳し、子どもの村の育親支援や里親支援に活かすとともに、広く「東京フォーラム」、
「九州フォーラム」や外部向けのセミナーなどで広報した。

(2) 家庭養護の人材養成

(ア) 里親・ファミリーホーム(FH) 専門研修会(年 2 回)(俱進会助成事業)

家庭養護の質の向上・専門性の向上のために、専門的なテーマにそった講義と実践考察である「ケア・スタディ」を組み合わせ実施した。

対 象 : 育親・SOS おばさんをはじめ、里親・FH の養育者

第 1 回	「子どものトラウマ～理解とケア」 講 師 : 亀岡智美(兵庫県こころのケアセンター副所長) 日 時 : 2015 年 8 月 30 日(日) 10:00～15:00	参加:27 名
第 2 回	「子どもとのよい関係を築く家族の力動」 講 師 : 早樫一男(同志社大学客員教授) 日 時 : 2016 年 1 月 23 日(土) 10:00～15:00	参加:32 名

(イ) 公開研修会(年 3 回)(俱進会助成事業)

社会的養護の現状と課題、SOS 子どもの村の取組について、一般市民への理解を広める研修をグループディスカッションや交流茶話会などを加えて行った。

対 象 : 子どもの村、里親、子ども支援、子ども福祉に関心のある市民

第 1 回	「家族と暮せない子どもたちと SOS 子どもの村の取組み」 講 師 : 坂本雅子(SOS 子どもの村 JAPAN 常務理事) 日 時 : 2015 年 6 月 13 日(土) 13:30～16:00	参加:47 名
第 2 回	「子どもの未来を築く愛着の絆とトラウマのケア」 講 師 : 松崎佳子(九州大学大学院 教授) 日 時 : 2015 年 10 月 24 日(土) 13:30～16:00	参加:46 名
第 3 回	「家族と暮す子どもの権利 ～世界の動向と SOS 子どもの村の取組み」 講 師 : 橋本愛美(福岡市子ども家庭支援センター 「SOS 子どもの村」相談支援員) 日 時 : 2015 年 10 月 24 日(土) 13:30～16:00	参加:30 名

(ウ) 子どもの村福岡研修(於 子どもの村福岡たまごホール)

対 象 : 子どもの村スタッフ、SOS 子どもの村 JAPAN スタッフ、サポート部等関係者

講 師 : Dr. Christian Posch

日 時 : 2015 年 11 月 13 日～17 日

(エ) 里親養育の質の向上をめざすプログラム開発(日本財団助成事業)

イギリスで開発された里親研修「フォスタリング・チェンジプログラム」を日本型としての展開をめざすため、以下の事業を始めた。

① 企画委員会開催(年 5 回)

日本での普及に向けての検討を行う

<企画委員メンバー>

上鹿渡 和宏 (長野大学 社会福祉学部社会福祉学科准教授)

藤林 武史 (福岡市こども総合相談センター所長)

渡邊 守 (NPO 法人 キーアセット ディレクター)

後藤 慎司 (大分県中央児童相談所 所長)

河尻 恵 (福岡学園)

平田 ルリ子 (全国乳児福祉協議会会長)

天久 真理 (福岡市里親会 会長)

岩本 健 (福岡市里親会 副会長)

坂本 雅子 (SOS 子どもの村 JAPAN)

松崎 佳子 (SOS 子どもの村 JAPAN)

山本 裕子 (SOS 子どもの村 JAPAN)

田代 多恵子 (SOS 子どもの村 JAPAN)

② フォスタリング・チェンジテキストの翻訳 (2016 年 7 月出版予定)

③ ファシリテーター養成セミナーの実施

実施期間 : 2016 年 3 月 14 日～18 日 (5 日間)

対 象 : 里親支援者、児童相談所職員、里親支援専門相談員など 18 名

(3) 子ども支援プログラムの研究開発と人材養成(積水ハウス助成事業)

<p>① 専門研修時の子どもプログラム</p> <p>里親専門研修時に並行して、里子同士の関係形成、自尊感情向上のために主体性が尊重された遊びの体験ができるケアプログラム「子どもプログラム」を実施</p> <p>参加者： 福岡市・福岡県の里子 のべ72名 サポーター のべ35名</p> <p>内 容： 研修を受けたサポーターとともに、自由遊び、創作遊び、野外遊びなど サポーター養成講座を2月11日に実施。</p>
<p>② 里親・里子交流キャンプ</p> <p>福岡市の里親支援に関わる関係者が実行委員会をつくり、里親子支援のキャンプを実施</p> <p>日 時： 2015年9月19日～21日(2泊3日)</p> <p>場 所： 国立山口徳地青少年自然の家</p> <p>参加者： 福岡市・福岡県の里親家族14家族(大人24名、子ども34名 サポーター55名</p>

(4) 家庭養護推進のための多分野ネットワークづくり

家庭養護推進のために、里親支援者である各種専門家(小児科医、精神科医、弁護士など)との協力関係づくりをすすめ、専門家との連携・支援の多分野ネットワークの構築をめざす活動を行った。

対 象： 福岡市・県の小児科医・精神科医、精神保健福祉士、臨床心理士、
 社会福祉士などのコ・メディカルスタッフ

<p>テーマ：「子どもと家族を支援する精神科医療の役割」</p> <p>日 時：2016年2月26日(金) 19:00～20:30</p> <p>基調講演「精神科医療と子ども福祉の連携」 講 師：金井剛(横浜中央児童相談所 所長)</p> <p>特別対談『子どもと家族を支援する精神科医療の役割』 金井剛 先生 × 藤林武史(福岡市こども総合相談センター 所長)</p>	<p>参加:56名</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------

4) アドボカシー活動

家族と暮らす子どもの権利、家庭養育推進、また、危機にある子どもと家族の支援の重要性とそのプログラムについて広報した。

(1) 「子どもの村福岡」開村5周年、「子どもの村東北」開村記念企画

ロバート キャンベル教授とともに語る「子どもと家族」

2015年7月3日 13:30～16:30 会場:エルガーラ中ホール

(2) オーストリアからの支援を受けた特別事業

(ア)東京フォーラム(メルリンチ助成事業)

東京フォーラム前夜祭開催

2015年11月2日 18:30～20:30 会場:ホテルモントレー銀座

テーマ: フォスターユース交流会「私の夢・私の自立」

参加者: SOS オーストリアおよび日本のフォスターユースを含む 45名

東京フォーラム開催

2015年11月3日 10:00～15:30

会場: メルリンチ日本証券株式会社 6階 本社セミナールーム

テーマ: 子どもの自立支援と「家族強化プログラム」

—SOS 子どもの村オーストリアの実践に学ぶ—

参加者: 125名

配付資料: 1)オーストリア研修報告書

2)翻訳資料『家族強化プログラム SOS 子どもの村マニュアル』

(日本語版 2015)

Family Strengthening Programms Manual for the SOS Children's Village Organisation

東京フォーラム特別企画 15:45～16:30

テーマ: 3人のゲストを囲んで・3つのグループに分かれて「もう少し聞きたい!!」

参加者: 45名

(イ)九州フォーラム

九州フォーラム開催

2015年11月10日 13:00～16:30

会場: こども総合相談センター研修室

テーマ: これからの里親支援

～SOS 子どもの村オーストリアの里親支援の実践に学ぶ～

参加者: 105名

(3) 講演会や学会発表

月日	学会名・研修会名	講演/論文/執筆テーマ	担当
2015年6月17日	西区人権尊重連絡会議総会及び委員研修会	「家族と暮す子どもの権利」	坂本
2015年6月26日	暮らしの中の人権講座	「家族と暮す子どもの権利」	坂本
2015年7月26日	日本社会医学研究大会(久留米)	分科会座長「危機にある子どもと家族を支援する」 ～子どもの健康と阻む社会的要因と家族～	山本・松崎
2015年11月18日	PPST研究会九州ブロック・セミナー(佐賀市)	精神病の親を持つ子どもに対する心理的支援	黒木
2015年11月21日	日本子どもの虐待防止学会第21回学術大会	ファミリーホームでの食事場面が伝える里親像に関する考察	松崎
2015年11月21日	日本子どもの虐待防止学会第21回学術大会	家庭養護のさらなる推進と支援に向けて～九州からの発信「行政・施設・市民」3つのモデルの実践レポート	松崎・坂本
2015年11月21日	日本子どもの虐待防止学会第21回学術大会	子どもの権利としての「遊び」・心のケアとしての「遊び」	橋本
2015年12月2日	福岡市社会福祉協議会主催 平成27年度第3回市民福祉講演会	危機にある子どもと家族への支援 ～子どもの問題は、子どもと家族のSOS～	山本
2015年12月6日	第14回市民フォーラム「子どものやさしいまちづくり」	分科会1「困難を抱えた子どもと家族を支援する地域づくり」 基調講演「子どもと家族をささえるということ」	山本
2016年2月20日	日本犯罪心理学会九州地区研究会	児童虐待の現状と家族支援	松崎
2016年3月11日	第28回九州アルコール関連問題学会	分科会4～社会のさまざまな局面で見られる嗜癮問題～ どうしたらいいの？～子どものネット依存も”問題のデパート”～	山本
2016年3月26日	第17回日本サイコロパシー学会	シンポジウム2:愛着の病理と支援 「子どもと家族」の相談支援期間から見える愛着の病理と支援	山本
2016年3月27日	第17回日本サイコロパシー学会・シンポジウム2「愛着の病理と支援」(福岡市)	「子どもと家族」の相談支援機関から見える愛着の病理と支援	黒木

寄稿:坂本雅子「SOS子どもの村JAPANと小児科医」福岡県小児科医報 No53

5) 子どもに関わる個人・団体・企業・その他関係機関との連携

■福岡におけるネットワークの活動

(1) ファミリーシップふくおか

(福岡市里親養育支援共働事業「新しい絆」プロジェクト)との連携

(ア)「新しい絆」フォーラム

第1回(2015年8月) 130名参加

基調講演「子どもに愛情ある家庭を～SOS相談からの学び～」他
講師 田尻由貴子(スタディライフ熊本)(元慈恵病院相談役)

第2回(2016年2月)若ものたちの自立を保障するために 100名参加

基調講演「ユースの声が作りあげたアメリカの“自立のしくみ”」他
講師 栗津美穂・ティモシーベル(IFCA)

(イ) 特別企画「里親推進全国フォーラム in 福岡」(2015年9月) 300名参加

主催 福岡市・NPO法人子どもNPOセンター福岡

リレートーク「福岡市におけるNPOと共働した里親委託推進10年のあゆみ」

(藤林武史・大谷順子・坂本雅子・田北雅裕・大歯修司・里親さん)

リレートーク「各地NPOの先進的とりくみ」

(渡邊守・林恵子・栗津美穂)

パネルディスカッション「社会全体に助けよう、支えよう、里親と子ども」

(高島市長・厚生労働省課長・土井香苗)

10年間の活動を通して福岡市の里親委託率が飛躍的に伸びた成果が全国的な注目となり、官民共同の実行委員会による開催で、全国各地から行政、NPO関係者が多数参加した。

(2) 子どもにやさしいまちづくりネットワーク(福岡)との連携

(ア) ネットワーク会議(毎月定例)

子ども分野の市民・NPO・グループ 27 団体が登録、約 30 名で月例会議を開催。
活動の交流や、子ども課題の議論を重ね、市民フォーラムの準備も進めた。

(イ) 第 14 回市民フォーラムの開催(2015 年 12 月)

全体テーマ「子どもの権利でつながる学校・地域・家庭」

基調講演「子どもの権利と学校ソーシャルワーク」講師:奥村賢一

分科会 ①「困難を抱えた子どもと家族」を支援する地域づくり

②「多様な学びで育む～学校・地域・大人の役割～」

③「子どもの権利でつながる学校・地域・家庭」

④「すべての子どもに平等な医療を」

⑤「すべての子どもが自分らしく生きるために

～性の多様性を知ることから～

(3) 福岡市子ども虐待防止活動推進委員会

* 委員会構成: 28 団体・福岡市: 年 2 回開催

* ワーキンググループの開催 推進委員会の取り組み企画など

* 事業

① 子ども虐待防止市民フォーラム～虐待死ゼロのまちをめざして～

2015 年 8 月 4 日 500 名参加

基調講演「遊び場・逃げ場・生活の場をつくろう～地域で子どもを支えよう」

講師 荘保共子(NPO 法人こどもの里 館長)

② 児童虐待対応研修

③ 11 月児童虐待防止推進月間

6) 社会的養護に関する情報提供・啓発事業

広報部からコミュニケーション部へと名称を変更し、情報の双方向性と組織内部での情報共有までを含んだ取り組みを試みた。基盤整備のための現状の評価と分析を中心に行ったため、ツールの開発までには至らなかった。

(1) ニュースレターの発行

支援者向けのニュースレターを2015年5月、10月、12月に各4000部発行した。

(2) メディアとの協働

ロバート・キャンベル氏の講演会やフォスタリング・チェンジ研修などが各種新聞にとりあげられた。また、西区の校区里親普及事業がコミュニティ紙でとりあげられ、一定程度の反響があった。

パブリシティの強化は費用対効果が高く、今後、広告費として換算し記録し、評価する必要がある。

(3) ウェブサイトの運営

月一度の分析とレポートを定例化するなど、施策を検討する上でかかせない、現状の評価分析をすすめた。運営については、ブログの更新や、固定ページの若干の修正に留まった。

(4) 広告

主要紙に新聞広告を実施。

広告掲載後、寄付申し込みなどの反響はあり、これらの効果的な掲出については、今後も検討が必要。

(5) 広報誌「かぞく」の普及

「家族と暮らせない子どもたち」への理解と支援を「新しい層」に拡大していくことを目的として、2014年12月に試験的に「創刊号」として5000部発行した。今年度は、講演会や研修会など各種イベントで紹介するとともに販売を行った。個人や団体による注文も、発行後一定程度継続している。

- ・販売 (2016年3月末現在 2015年度実績453部) (残部889部)
- ・協賛広告 (8社：900千円)
- ・収支差額 (2014年12月からの累積：391,230円)

7) SOS 子どもの村 JAPAN のビジョン策定

【目的】

SOS 子どもの村 JAPAN のビジョン策定を通して、中長期的事業・運営計画を明らかにすること。

【実施内容】

- ①理事会のもと、外部協力者を含め9名で構成する「ビジョン策定委員会」を7月に発足させ、委員会5回(2016年度1回)を開催、中間作業を集約しながら進めた。
- ②子どもサポート部、コミュニケーション部(広報部改め)、資金開発部、事務局での分野ごとの議論、執行会議での議論など、できる限り多くの場での意見を求めて作業を進めた。
- ③子ども福祉に関する国の政策転換、SOS インターナショナルの戦略の展開など、環境の変化が予測されるなか、計画を確かなものにするために、組織の歴史的経過や果たしてきた社会的役割をふり返り、組織の存在意義を確認するとともに、SOS 子どもの村の理念や子どもの権利条約、NPO の社会的使命に立脚したビジョン策定を基本とした。
- ④目標の設定については、最終的に、「5年後の目標(像)」と、それにいたる「行動計画」とした。
- ⑤取り組みにあたっては、できる限り多くが参加することを呼びかけ、将来ビジョンと夢を語りあうことを通して、それぞれの課題解決の方向が見え、チームのエンパワメントに繋がることを目標にした。

【実施結果】

- ①報告書「SOS 子どもの村 JAPAN の5年後の目標と計画」を完成させた。
- ②5年後の目標にいたる中間計画の詳細については、今後の課題として残された。
目標実現のためには、引き続き具体化のための方策が必要とされている。
- ③組織を総合的に、また長期のスパンで捉えるビジョン策定の取り組みは、改めて、この組織の存在意義の再認識や、さまざまな課題への気づきの機会となった。

【今後に向けて】

- ①「5年後の目標と計画」は、今後に向けてさらに豊かで、具体的にされることが期待される。
- ②「報告書」が、組織の存在価値と方向性について確信となるように、組織全体で共有され、活かされていくことが期待される。

8) 資金開発・支援者リレーションズ

(1) 資金開発の強化

2015年度は、支援者基盤を充実させるために、支援会員数の目標を設定したものの、個人、企業団体ともに十分な実績に至らなかった。

・支援会員実績(2016年3月末日時点)

	実績	計画
個人	2,039人 計画対比▲41人	2,080人 前年度末対比+150人
企業・団体	364社 計画対比▲2人	366社 前年度末対比+12社

(2) 支援者リレーションズ

支援者向けの感謝の会を以下の通り実施した。

	参加者数	実施日	開催場所
個人向け	29人	2016年2月13日	子どもの村福岡 「たまごホール」
企業・団体向け	14社・団体	2015年11月19日	福岡市人権啓発センター 「ココロンセンター」研修室

※いずれの会も、初めて参加される方が大半を占め、アンケート結果からも、当団体の活動に対する理解が深まったとの回答を得た。

(3) 支援ボランティア

今期は、メンバーの拡充を目指し、ボランティア向けの説明会や、より具体的な参加方法の案内を心掛けた。

2016年1月に実施した懇親会へは、23名の参加の内、約半数(11名)が初参加の方となり、今後のボランティアメンバーの拡充に奏功したと思われる。

9) 支援団体との連携

(1) 子どもの村福岡後援会

2015年10月23日に開催された、「子どもの村福岡後援会連絡会議」において、下記の支援依頼を実施した。

- ①社員やご家族、関連企業などの支援会員の加入促進
- ②チャリティイベントへの後援
- ③ボランティア活動への参加
- ④支援自販機の設置について、支援依頼を実施した。

(2) 子どもの村福岡を支援する小児科医の会

前会長から引き継がれた福岡県小児科医会の進藤静生会長のもとに新しい体制になった「支援する会」に継続的な支援を依頼した。